

トピックス

11月25日から27日までロンドンで開催され、英国製薬産業協会(ABPI)、英国保健省(DH)と活発な意見交換、討議がなされました。日本からは内藤副会長、戸田国際委員長、中山副委員長、西川副委員長ほかのメンバーが出席し、ロンドンの現地企業団体であるファルマ会からも多数の方が参加しました。

英国製薬産業協会(ABPI)との会合

ABPIとの会合では、前週に英国保健省と妥結したPPRS(医薬品価格規制制度)交渉内容について詳しい説明がありました。新薬開発企業にとってはポジティブなものでもあり、おおむね納得のいく内容でした。またリチャード・バーカー理事長からは、ABPIが会員企業に声をかけ、患者からの信頼(Trust)、科学技術革新(Innovation)、英国が価値ある医薬品を生み出す環境(Value)、患者への適切な医薬品の提供(Access)を実現するための機能、実行するためのタスクフォースを稼働させているとの説明がありました。製薬協としても会員企業に対するプレゼンスを高めるために参考になる内容でした。研究開発分野では、OSCHR(Office for Strategic Coordination of Health Research ヘルスリサーチ戦略調整庁)やSC4SM = Stem

Cells for Safer Medicines(より安全な医薬品のための胚性幹細胞)に関する進展状況が報告され、英国のR&Dに対する取り組みがさらに強化されていたと感じました。

英国保健省(DH)との会合

DHとの会合では、ハービー英国保健省医療・製薬・産業審議官から、新PPRSはコスト効果、医薬品アクセスが図られた価値ある医薬品価格であるとの説明がありました。官民対話が十分にされ、価格交渉だけでなくイノベーションに関して考慮されており、英国への投資環境、英国の薬事当局の優秀性、トランスレーショナルリサーチなどの研究開発における英国当局と企業の協力体制は大変勉強になりました。製薬協からは、日本の官民対話・5か年戦略の内容、臨床試験および製薬協の新薬価格制度提案内容などの最新状況を説明しました。パネルディスカッ



写真1 左から：戸田国際委員長、内藤副会長、ABPI プリンスメッド会長、バーカー理事長

ションでは英国側から多くの質問が出され活発な議論となりました。

英国保健省(DH)副大臣との会合

11月25日の夕方、DHプリマロロ副大臣との会合がセッティングされ、内藤副会長他が英国議会内で面談しました。また、同日に開催されたABPIと

DH主催のレセプションは由緒ある寺院で行われ、英国政府関係者(DH、医薬品医療製品規制庁<MHRA>、国民医療サービス<NHS>など)、日系企業関係者が多数参加し、大変有意義な会合となりました。

(国際部長 宮澤 清治)



写真2
左から：ABPIバーカー理事長、山辺前専務理事、内藤副会長、ライト科学・技術部長



写真3 DHとの会合参加者